

**(前回) 審議会および作業部会
委員意見と対応方針**

1. 令和6年度 第1回環境審議会 委員意見

1-1 局横断的な検討

整理番号	委員意見	対応方針	今回までに対応	次回以降で対応
1	作業部会で議論する際に、他局にオブザーバーとして参加してもらい、多様な分野の意見が聞ける場を設ける必要がある。	素案策定作業部会では多様な分野の意見が聞けるよう、特に関係の深い住宅都市局、農林水産局、経済観光文化局がオブザーバーとして参加している。	●	
2	Fukuoka Green NEXT に関して、業務の縦割り感がある。局横断的に「ネイチャーポジティブ」について検討していくべき。	「ネイチャーポジティブ」について、局横断的に検討していくことは重要と考えており、農林水産局など関係局と連携し、計画の内容について検討していく。	●	●
3	福岡市の場合は、経済をどのように回していくかとの視点が大事であり、環境ビジネスについて積極的に議論すべき。	次期計画では「環境」「経済」「社会」の統合的向上の視点が重要と考えており、経済観光文化局など関係局と連携し、計画の内容について検討していく。	●	●
4	福岡市域の3分の1は森林が占めているが、その約7割がスギとヒノキの人工林という現状で、適切な間伐、植え替え等を行わなければ生物多様性の保全はできない。山林対策をいかに講じていくか、検討していく必要がある。	森林の保全・回復は「ネイチャーポジティブ」の推進に重要な視点と考えており、農林水産局など関係局と連携し、計画の内容について検討していく。	●	●

1-2 福岡市基本計画との関連

整理番号	委員意見	対応方針	今回までに対応	次回以降で対応
1	福岡市基本計画の基本戦略について、福岡市特有の産業構造を踏まえた記載があってよい。また、「多様な人材が育ち、チャレンジできる環境づくり」に関しては、具体的な施策を想起させる文言があってもよい。最後に、「広域的役割」については、他都市のモデル都市となるべく、より強調されていてよい。	福岡市基本計画に関するご意見について、同計画の基本戦略を次期環境基本計画にどのように落とし込んでいくかという視点で検討していく。 なお、福岡市基本計画の改定状況については、参考資料にてお示しさせていただく。	●	

1-2 福岡市基本計画との関連

整理番号	委員意見	対応方針	今回までに対応	次回以降で対応
2	福岡市基本計画の分野別目標については、抽象的になりがちで、環境問題が悪化している現状において、より市民の行動変容を促せる具体的な目標を設定できるとよい。	福岡市基本計画に関するご意見について、次期環境基本計画において具体的な施策がイメージできるような文面となるよう検討していく。 なお、福岡市基本計画の改定状況については、参考資料にてお示しさせていただく。	●	

1-3 次期計画の方向性

整理番号	委員意見	対応方針	今回までに対応	次回以降で対応
1	ウェルビーイングの視点から市民が環境問題を自分事として考え、一人ひとりが行動していく仕組みを作っていくことが重要。	次期計画では「行動変容」を促進する内容とすることが重要と考えている。今回、市民一人ひとりの行動変容やウェルビーイングの視点を踏まえた方向性案を示しており、今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●
2	市民一人ひとりの「生活環境」というものもしっかり考えていく必要がある。環境を人間や社会を取り巻く外的な事物の総体として広く捉えると、「生活環境」の豊かさがウェルビーイングに繋がり、この構造がグローバルな環境問題の解決にも繋がる。	快適で良好な生活環境を保全することは、持続的な経済社会活動の基盤となるものであり重要な視点と考えている。今回、同視点を踏まえた方向性案を示しており、今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●
3	国の環境基本計画では、「自然資本」という言葉が多く入っており、福岡市の次期計画でもこの言葉を全面に出すとよい。	「自然資本」は持続的な経済社会活動の基盤となるものであり重要な視点と考えている。今回、同視点を踏まえた方向性案を示しており、今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●

1-3 次期計画の方向性

整理 番号	委員意見	対応方針	今回まで に対応	次回以降 で対応
4	国の視点と整合を取ることは大事だが、福岡市の地域特性を踏まえながら検討していくことが必要。	次期計画については、国の環境基本計画との整合を図りつつ、福岡市の課題や地域特性に応じて検討していく必要があると考えており、福岡市の環境の現況等をお示ししている。今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●
5	国のトレンドに合わせるだけでなく、福岡市の強みや弱み、特性を分析したうえで、次期計画を検討していく必要がある。			
6	福岡市といえば都市部だけを考えがちだが、区によっても様々な特色があり、地域の多様性も検討していく必要がある。	福岡市は都市と自然が共生し、エリアによって特徴も異なることから、今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。		●
7	環境保全や脱炭素につながる取組みについて、対応の必要性はわかるが、何から始めてよいかわからない中小企業が多いようであり、自治体としてできる事をよく考える必要がある。	次期計画では中小企業の環境経営を促進する内容とすることが重要と考えている。今回、事業者との連携の視点を踏まえた方向性案を示しており、今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●
8	市民に理解してもらえる計画にする必要がある。例えば、「カーボンニュートラル」「サーキュラーエコノミー」「ネイチャーポジティブ」の意味を知らない市民も多く、用語を理解してもらう必要がある。	市民に伝わりやすい計画とすることが重要と考えており、同視点を踏まえた方向性案を示している。用語等については、今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●
9	小中学生への環境教育に力を入れてほしい。	市民の行動変容を促すためには、環境教育・学習が重要と考えており、今回、次期計画「福岡市環境教育・学習計画」を統合する案をお示ししている。今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●

2. 第1回素案策定作業部会 委員意見

2-1 現行計画の検証及び福岡市の環境の現況等

整理番号	委員意見	対応方針	今回までに対応	次回以降で対応
1	再エネ設備容量は、九州全域で順調に導入が増えているが、再エネで創出した電力が使用されていない時間が多くなっており、エネルギーマネジメントやデマンドレスポンス、蓄電等により再エネ電気を有効活用していくことが重要と考える。	蓄電池等により、余剰電力が生じる時間帯に発電した電気を貯め、夜間に活用していくことが重要と考える。 九州電力㈱では、エコキュートの炊き上げ時間を夜間から昼間にシフトさせることで、再エネ電気の有効活用に資する取組みを進めており、引き続き、これらの民間企業等とも連携しながら、再エネ電気の有効活用について検討していく。	●	●
2	コロナ後、市内におけるインバウンド増加により、事業系ごみが増えていると思う。インバウンドに関連するごみ減量施策の視点も検討してもらいたい。	インバウンドの増加と事業系ごみ処理量の相関を分析することは難しいが、インバウンド由来のごみ処理は重要な観点であると考えており、しっかりと検討していく。	●	●
3	エシカル消費は、市民等にあまり浸透しておらず、購入から廃棄までのトータルでの教育や啓発が必要と考える。 エシカル消費は次期計画では強調して示すとともに、取組みとしてもしっかり行ってもらいたい。	現在は、市政だより等による広報や、民間企業と連携してイベントを開催するなど、エシカル消費の普及啓発を行っている。 引き続き、事業者等とも連携しながら取組みを進めていく。	●	●

2-2 次期計画の施策体系

整理番号	委員意見	対応方針	今回までに対応	次回以降で対応
1	包括的でよくまとまっているが、AIやビッグデータの活用の視点が不足していると思う。計画期間の10年先を見据え、技術革新により、どこまで行動のモニタリングや行動分析ができるか注視してほしい。	デジタル技術の活用やイノベーションの実装支援を通じた行動変容の促進の視点は重要と考えている。今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。 (資料3：P21・23に視点を追加)	●	●

2. 第1回素案策定作業部会 委員意見

2-2 次期計画の施策体系

整理番号	委員意見	対応方針	今回までに対応	次回以降で対応
2	構造面はよくできているが、ウェルビーイングの言葉が国の方針のため仕方がないとはいえ馴染みにくい。SDGsは言葉が定着したように思うが、SDGsの言葉を計画に残すことは考えているのか。	SDGsは2030年をゴールとしている目標であり、ポストSDGsの議論も始まっていると認識している。考え方は普遍なものであり、どのように計画に落とし込めるか、検討していく。		●
3	行動変容はよいが、市民や事業者に一定のコストがかかるため、インセンティブや政策的な補助とがセットになった政策が必要だと思う。市民の意識を変えるだけではない一歩踏み込んだ政策を計画に盛り込んでほしい。	政策的なインセンティブや補助を含めた行動変容の促進について、どのように計画に落とし込むか検討し、今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。		●
4	重点的に取り組むことを市民に示すことが重要であり、重点施策を先に示す構造はよい。	今回、作業部会と同様の内容を審議会に提示させていただいている。（資料3：P11）	●	

2-3 めざすまちの姿

整理番号	委員意見	対応方針	今回までに対応	次回以降で対応
1	市の特性が伝わる例2（今回の資料では案1）がよい。	今回、作業部会と同様の内容を審議会に提示させていただいている。（資料3：P22）	●	
2	例2（今回の資料では案1）がよい。アジアのモデル都市をフレーズとして入れることについて、胸を張って言える都市は少ないが福岡市は言えると思う。			
3	事業者や経済の観点を盛り込んでもいいと思う。	今回、案2として審議会に提示させていただいている。（資料3：P22）	●	
4	「都市」というキーワードに事業者、経済の視点が含まれているかと思うが、もう少し明示的に示してもよいと思う。中小企業の行動変容は大事なポイント。			